

## ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際日本学部 名前：下出 茉莉 作成日：2024年1月18日

### 1. 教育の責任

大手前大学の「生涯にわたる、人生のための学び」という建学の精神に基づき、自らの関心を探求する力を養うことを目的に教育の実践を心がけている。

「日本文化史」（春学期、2単位、22名）

「国際日本特別講義（サマースクール）」（春学期、2単位、48名）

「日本美術工芸史」（秋学期、2単位、62名）

### 2. 教育の理念

日本が現在まで脈々と培ってきた「芸術」や「文化」の成り立ちを理解することは、物事のあらゆる側面に目を向け、柔軟な思考力を身につけていくことにつながると考える。そのため一般教養としての美術史、文化史の理解に努めるほか、自分の目でものをしっかりと見て、文献等の資料から必要な情報を得て、知り得た情報を自身の主張のもとに適切な言葉で表現していくという一連の能力を養う教育を目指したいと考えている。例えば美術史においては、一つの作品を語る際に、ただ、「きれい」、「怖い」という言葉だけでは、客観性をもった論証にはならない。その作品の何がきれいなのか、何が怖いのか、その要素は何に起因するのか、根拠は何か、ということをしっかりと考え探求し、相手が理解しやすい適切な言葉に変換して伝えるという一連の思考力、発信力が必要となる。これらの能力を獲得することは、豊かな人間性を形成していくことに必要不可欠なものであると考えている。

### 3. 教育の方法

「日本文化史」、「日本美術工芸史」では、日常生活ではなかなか触れる機会の少ないテーマを扱っているため、授業時に学生が理解しやすいよう工夫している。具体的には、毎回の授業のはじめに、前回授業内容の復習を10分程取り入れ、また授業の終盤には本日扱った授業内容のまとめの時間を取り入れるようにした。また、授業終わりに小レポートを執筆させ、授業で扱った内容をその場で整理し、できる限り理解して帰ってもらえるよう工夫した。

「国際日本特別講義（サマースクール）」では、5～6人のグループに分かれ、一つの作品（近現代の工芸品）について話し合い、話し合った内容をまとめて発表するというを行った（「デザイン、模様は？」「素材、作り方は？」「どんな印象をもったか」「作品解説を書くとしたらどんな情報が欲しいか」「作品解説を読む前と読んだあとで作品の見方は変わったか」「この作品のアピールポイントはどこにあるか」など）。題材にした作品は、授業期間中に開催されている企画展に展示されているものを選定し、学生が現物を見られる機会があるよう配慮した。本授業を通して「モノをじっくり見る」ということを体感できるように心掛けた。

また、本授業では、こちらが提示した6館の美術館、博物館の企画展を、自身の関心に合わせて1館選んで各自見学し、レポートを作成するという授業外課題を設けた。見学先は、兵庫、大阪、京都の授業内で扱った内容に関連する企画展を開催している館を選定した。展覧会を観に行ったことがないという学生のために、今後も自身の関心に合わせて気軽に美術館、博物館に足を運べるよう美術館、博物館を訪れる際の留意点等を事前に共有した。レポートの内容については、「個人の感想文ではない」ということに留意し、展覧会全体の総評を記すことと、好きな作品を1点以上ピックアップして授業内で行ったような作品記述を心がけて執筆するよう、授業内で説明を行った。

### 4. 教育の成果

「日本文化史」、「日本美術工芸史」では、受講生の理解度を確認するため、毎回の授業終わりに小レポートの執筆を設定し、次の授業時に3～4名のコメントを紹介することを行った。学生たちも他の受講生のコメントを知る機会となり、またそれが刺激になっていったと思われ、授業回数を重ねるごとにコメント内容が全体的に充実していくことが実感できた。

「国際日本特別講義（サマースクール）」では、一つの作品をめぐる、各グループから様々な意見を聞き出すことができた。視覚から得た情報をどのような言葉に置き換え、分かりやすく発表にまとめるのかということグループごとに行ったが、各グループ一人ひとりが積極的に発言し作業に参加していることが印象的であった。また、授業外課題のレポートでは、「このような機会がないと観に行く機会がない

## ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際日本学部 名前：下出 茉莉 作成日：2024年1月18日

ので、京都の清宗根付館を訪れた。」という記述も見られ、本授業を通して学生の積極的な学びに繋がったことを実感することができた。

キャリアデザインの授業では、授業内でのワークを実施する際は適宜巡視を行い、できるだけ学生一人一人に声をかけながら、授業内容をしっかりと理解できているか確認を行うようにした。アンケートでは、「その場で分からないことを質問しやすかった」という回答があり、巡視する際の声掛けの必要性を実感した。今後もできる限り学生一人一人に目を向けて授業を実践していくよう心掛けたいと思っている。

### 5. 改善への努力と今後の目標

今年度は、本学に着任して一年目であり多くの授業が未経験のものであった。そのため、どのように各授業を行っていくことがベストなのか手探り状態ではあったが、受講生の反応や授業後の小レポートの内容を確認しながら、授業内容や進め方を毎回細かく調整していくようにした。次年度以降は、見学などの学外での学習の機会も積極的に取り入れていきたいと考えている。引き続き、受講生の反応を注意深く確認しながら、学生の積極的な学びにつながるような指導を心がけていきたいと思っている。

### 【添付資料】